

第1学年 国語科

1 目標

- 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成する。
- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
 - (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
 - (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

2 評価について

評価の観点	評価材料
知識・技能	定期試験、小テスト、書写の作品など
思考・判断・表現	定期試験、小テスト、話す・聞く活動、作文など
主体的に学習に取り組む態度	作文、振り返りなど

3 授業について

- (1) 授業に必要なものは、教科書・ノート・ワーク・ファイルです。書写の学習の時は、書写の教科書と習字道具を使います。
- (2) チャイムが鳴ったらすぐに学習に取りかかれるように、休憩時間中に道具の準備をしておきましょう。
- (3) 積極的に自分の意見や考えを伝えたり、しっかりと他の人の意見や考えを聴いたりしましょう。
- (4) 予習は、ワークを活用して意味調べをしたり、漢字を練習したりしておきましょう。復習として、授業にそってワークの問題を解きましょう。

4 年間計画

月	単元	教材名	学習のねらい	関連する 道徳の 項目
4	1	野原はうたう(詩)	・詩に表現された語句の意味に着目し、作者の「ものの見方・感じ方」をとらえる。	
5	2	はじまりの風(物語)	・場面の展開や登場人物の関係の変化を読み取り、自分の考えをもつ。	
	3	聞く:情報を的確に聞き取る	・要点を押さえて書き留めることの大切さを理解し、効果的なメモの取り方を生活に取り入れる。	
	4	季節のしおり 春	・春に関連する言葉や詩歌を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。	
	5	情報整理のレッスン 比較・分類	・目的に合わせて情報を整理することの必要性を知る。	
	6	情報を整理して書く わかりやすく説明する	・情報の整理の仕方を理解し、観点に沿って情報を比較・分類をおこない効果的に伝える。	
	7	漢字1 漢字の組み立てと部首	・漢字の字形を組み立てと部首から理解する。	
6	2	ダイコンは大きな根?(説明文)	・問題提起と事実・根拠を述べている段落を見つけ、全体の構成を考える。	B(9)
	3	ちよっと立ち止まって(説明文)	・文章の構成に着目し、各段落がどのような役割を果たしているかを考える。	
	4	思考のレッスン1 意見と根拠	・説得力のある根拠や、意見と根拠の結び付きについて知る。	
	5	話の構成を工夫しよう 好きなことをスピーチで紹介する	・聞き手を意識して話題を決め、伝えたいことが明確になるよう、工夫して構成を考える。	
	6	文法への扉1 言葉のまとまりを考えよう	・言葉の単位を知り、聞き取りやすさや、分かりやすさを意識した言葉のまとまりについて考える。	
7	3	空の詩 三編(詩)	・表現技法を理解し、詩の中の語句の意味をとらえて詩を味わう。	D(22)
	4	書く:詩を作ろう	・指示する語句と接続する語句の役割を理解し、学習や日常生活に生かす。	
	5	言葉1 指示する言葉と接続する言葉	・言葉を集め、似た意味の言葉や修飾する言葉を考え、伝えたい内容に合う的確な言葉を探す。	
	6	言葉を集めよう もっと「伝える」表現を目指して	・楷書の字形や配列を意識して、筆使いに慣れる。	
	7	書写(毛筆)	・自分たちの学校や地域社会を平和な場所にするために大切なことについて話し合い、そのために自分にできることを考える。	
	8	自分たちの学校や地域社会の平和		
	9	読書を楽しむ(読書活動)本の中の中学生	・さまざまな読書の楽しみ方について理解する。	
	10	読書案内 本の世界を広げよう	・読書が「知識や情報」を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解する。	
	11	読書コラム 本との出会い	・言葉や表現の豊かな広がりを読み味わう。	
	12	季節のしおり 夏	・夏に関連する言葉や詩歌を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。	
8	4	大人になれなかった弟たちに……(物語)	・時代や状況の中で自分を見つめ、生き方を深めていくことの大切さを考える。	C(14)
9	5	星の花が降るころに(物語)	・描写に着目し、登場人物の心情や作者の思いを読み取る。	C(18)
	6	聞き上手になろう 質問で話を引き出す	・場面ごとの状況や、場面と人物などの描写を結びつけて、内容を読み深める。	A(3)
	7	項目を立てて書く 案内文を書く	・相手の立場に立って情報を選び、相手にわかりやすい項目や順序を工夫する。	
	8	推敲:読み手の立場に立つ	・推敲することの大切さを考える。	
	9	言葉2 方言と共通語	・共通語と方言の役割を知り、地域による言葉の違いについて関心をもつ。	
10	10	漢字2 漢字の音訓	・漢字の音・訓の歴史の性質を知り、正しく読む。	
	11	「言葉」をもつ、シジウカラ(説明文)	・筆者がどのような事実をもとにどのような仮説を立てているかを考える。	
	12	思考のレッスン2 原因と結果	・筆者の意見と、それを支える根拠との関係を考える。	
11	1	根拠を示して説明しよう 資料を引用してレポートを書く	・原因と結果がどうつながっているか、整理し、二つの関係について理解する。	
	2	話し合い:話し合いの展開を捉える	・自分の考えに説得力をもたせるようなレポートの構成を考え、必要な情報を効果的に取り入れる。	
	3	話題や展開を考えて話し合おう	・話題や展開をとらえながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えを深める。	
	4	グループ・ディスカッションをする	・言葉の響きやリズムを味わいながら朗読する。	
	5	音読を楽しもう 大阿蘇	・秋に関連する言葉や詩歌を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。	
	6	季節のしおり 秋		
	7	音読を楽しもう いろは歌(古文・音読)	・音読に必要な文語のきまりについて理解し、音読しながら古典のリズムや世界に親しむ。	C(16)
	8	古典の世界	・登場人物の思いに着目して、古典の世界と現代の人々に共通する部分を考える。	C(17)
	9	蓬萊の玉の枝―「竹取物語」から(古文)	・漢文を音読し、独特なリズムや言い回しに親しむ。	
	10	今に生きる言葉(漢文)	・故事成語と自分の経験を重ねて、書く内容の中心が明確になるように文章の展開や構成を考える。	
	11	書く:故事成語を使って作文を書く		
12	7	「不便」の価値を見つめ直す	・目的に沿って必要な情報を結びつけて要約する。	
	8	書く:根拠を明らかにして、意見をまとめよう	・立場を明確にして、自分の考えの根拠となる事例を挙げながら、意見をまとめる。	
	9	助言を自分の文章に生かそう 作品の書評を書く	・「書評に使う」言葉を利用して書き、読み手からの助言を踏まえ、良い点や改善点を見いだす。	
	10	文法への扉2 言葉の関係を考えよう	・文節どうしの関係を理解し、わかりやすく伝えることに生かす。	
	11	書写(毛筆)	・行書の特徴を知り、筆使いを理解して書く。	
	12	考える人になろう		
1	8	読書を通してさまざまな人の生き方や考えに触れ、自分のものの見方や考え方を広げる。	・雪に関連する言葉や詩歌を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。	
	9	読書案内 本の世界を広げよう		
	10	季節のしおり 冬		
2	8	少年の日の思い出(物語)	・時間・場所・出来事・語り手に着目して作品の構成や展開をとらえる。	A(4)
	9	書く:別の人物の視点から文章を書き換えよう	・場面描写の言葉や心情を表す言葉に着目し、登場人物の生き方を考える。	B(8)
	10	文法への扉3 単語の性質を見つめよう	・別の人物を選び、その人物の心情や行動が明確になるよう構成や展開を工夫して書く。	
	11	随筆二編	・情感のある表現に着目させ、語感を磨き語彙を豊かにする。	
	12	構成や描写を工夫して書く 体験を基に随筆を書く	・読み手がイメージできるように、書き出しや結び、出来事、言葉などを吟味し、描写を工夫して書く。	
	1	言葉3 さまざまな表現技法	・さまざまな表現技法を知り、日常生活の中でも使うことで物事をより効果的に伝える。	
	2	漢字3 漢字の成り立ち	・漢字の成り立ちを理解し、今後の漢字の学習につなげる。	
	3	一年間の学びを振り返ろう	・一年間で学んだことを生かして、自分の考えを相手にわかりやすく伝える。	
	4	さくらの はなびら(詩)	・詩に用いられている言葉や表現技法をもとに、作者の思いを想像し考えを語り合う。	

第1学年 社会科

1 目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す。

2 評価について

評価の観点	評価の方法
知識・技能	定期試験、小テスト、課題など
思考・判断・表現	定期試験、レポート、課題など
主体的に学習に取り組む態度	振り返りシート、授業ノート、課題など

3 授業について

- (1)授業に必要な物は、教科書・地図帳・ノート・筆箱(鉛筆・ものさし・赤色ボールペン・マーカーペン1本・消しゴム・のりを必ず入れておく)の4点です。忘れ物をしないようにしましょう。
- (2)日頃から新聞やニュースに親しみ、国内・国外の社会の動きを知り、関心を持つようにしましょう。
- (3)定期試験では、授業で学んだことが身についたかを調べるので、テスト勉強で復習に使えるようなメモを取ることがとても大切です。①授業の日付と教科書などのページを書く、②板書をきちんと写す、③プリントを授業の順番にいないにはさむ、④説明を聞いてメモ書きする、⑤重要項目は色ペンで強調して書くなど①～⑤を必ずやりましょう。
- (4)新しく習った地名は、自分でもう一度地図帳を開き位置を確認し、ノートを見てその日の復習をしましょう。
- (5)その日の授業で学習した重要語句を復習しておきましょう。

4 年間計画

月	分野	単元・章・節	学習のねらい	関連する道徳の項目
4	地理的分野	第1章 世界の姿 第2章 日本の姿	世界と日本の地域構成を取り上げ、位置や分布、世界各地との時差などに着目して、課題を追求したり解決したりする活動を通して、知識及び思考力、判断力、表現力等を身につける。	
5	地理的分野	第1章 人々の生活と環境 第2章 世界の自然環境	場所や人間と自然環境との相互依存関係などに着目して、課題を追求したり解決したりする活動を通して、知識及び思考力、判断力、表現力等を身につける。	C(18)
6	歴史的分野	第1章 歴史をとらえる見方・考え方 第2章 身近な地域の歴史	時期や年代、推移、現在の私たちとのつながりなどに着目して、年表を読み取る技能や歴史上の人物や文化財、出来事などから時代区分との関わりなどについて考察し表現する。	
7	平和教育プログラム	人々の平和への思い	広島や長崎の復興の様子を知り、広島の人々の平和への思いや願いについて考える。	C(16)
9	歴史的分野	第1章 世界の古代文明と宗教のおこり 第2章 日本列島の誕生と大陸との交流	世界の古代文明や宗教のおこりと、古代文明や宗教が起こった場所や環境、農耕の広まりや生産技術の発展などに着目して、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。	
10	地理的分野	第2章 世界の諸地域 1節 アジア州 2節 ヨーロッパ州 3節 アフリカ州 4節 北アメリカ州 5節 南アメリカ州 6節 オセアニア州	世界の各州を取り上げ、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追求したり解決したりする活動を通して、知識及び思考力、判断力、表現力等を身につける。	C(18)
11	歴史的分野	第2章 古代国家の歩みと東アジアの世界	大和朝廷による統一の様子と東アジアとの関わり、律令国家の形成、古代文化と東アジアの関わり等について理解し、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。	C(18)
12	歴史的分野	第3章 中世の社会 1節 武士の政権の成立 2節 ユーラシアの動きと武士の政治の展開	武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。	C(17)



第1学年 数学科

1. 目標

- (1) 正の数と負の数、文字を用いた式と一元一次方程式、平面図形と空間図形、比例と反比例、データの分布と確率などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数理的に捉えたり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数の範囲を拡張し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりする力、図形の構成要素や構成の仕方に着目し、図形の性質や関係を直観的に捉え論理的に考察する力、数量の変化や対応に着目して関数関係を見だし、その特徴を表、式、グラフなどで考察する力、データの分布に着目し、その傾向を読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりする力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさに気付いて粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って検討しようとする態度、多面的に捉え考えようとする態度を養う。

2. 評価について

評価の観点	評価材料
知識・技能	定期試験、確認テストなど
思考・判断・表現	定期試験、確認テスト、レポートなど
主体的に学習に取り組む態度	確認テスト、単元のふり返りや単元のまとめ、問題集など

3. 授業について

- (1) 授業に必要なものは、教科書、ノート、問題集、ファイル、定規、コンパス（図形の時）です。
- (2) 宿題や課題は、期日を守ってしっかりと取り組みましょう。
- (3) 数学の力を上げるには、毎日の家庭学習が欠かせません。特に、復習に取り組むことが大切です。

4. 年間計画

月	学習内容	学習のねらい	関連する 道徳の項目
4 5	正の数・負の数 ①正の数・負の数 ②加法・減法 ③乗法・除法 ④数の集合	・正の数と負の数の必要性和意味を理解し、正の数と負の数の四則計算をすることができる。 ・具体的な場面で正の数と負の数を用いて表したり処理したりすることができる。 ・数の集合と四則計算の可能性について捉え直すことができる。	
6 7	文字式 ①文字式 ②式の計算	・文字を用いることの必要性和意味を理解し、簡単な1次式の加法と減法の計算をすることができる。 ・数量の関係や法則などを、式を用いて表したり読み取ったりすることができる。	
9	1次方程式 ①方程式 ②1次方程式の利用	・数量の大小関係を、不等式を用いて表すことができる。 ・簡単な1元1次方程式を解くことができる。 ・1元1次方程式を具体的な場面で活用することができる。	
10 11	比例と反比例 ①関数 ②比例 ③反比例 ④比例と反比例の利用	・関数関係の意味、変数、比例、反比例について理解する。 ・比例、反比例を表、式、グラフなどに表すことができる。 ・比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。	
12 1	平面図形 ①いろいろな角の作図 ②図形の移動	・角の二等分線、線分の垂直二等分線、垂線などの基本的な作図の方法や、平行移動、回転移動及び対称移動について理解する。 ・基本的な作図や図形の移動を具体的な場面で活用することができる。	
2	空間図形 ①空間図形の見方 ②立体の表面積・体積	・空間における直線や平面の位置関係などについて理解する。 ・おうぎ形の弧の長さや面積、基本的な柱体や錐体、球の表面積や体積を求めることができる。	A(4) A(5)
3	データの活用 ①データの傾向の調べ方 ②データの活用	・ヒストグラムや相対度数などの必要性和意味を理解する。 ・目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、考察し判断することができる。	

第1学年 理科

1 目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。

2 評価について

評価の観点	評価材料
知識・技能	定期試験、小テスト、レポート、実技テストなど
思考・判断・表現	定期試験、小テスト、レポートなど
主体的に学習に取り組む態度	レポート、振り返りシートなど

3 授業について

- (1) 授業に必要なものは教科書、ノート、ワーク、ファイルです。忘れ物をしないようにしましょう。
- (2) 実験・観察は予想を立てて、自分の考えと比較しながら行いましょう。考察は、実験の結果をふまえ、具体的に書きましょう。
- (3) 学習ノートの問題をやるなどして、その日に習ったことはその日のうちに復習しましょう。
- (4) 学習ノートは定期試験の時の学習に活用しましょう。プリントはファイルにきちんととじ、普段から整理しておきましょう。

4 年間計画

月	単元	章	学習のねらい	関連する 道徳の事項
4 5 6 月	いろいろな生物とその共通点	自然の中に生命の営みを見つけてみよう	校庭や学校周辺の生物の観察を通して、いろいろな生物がさまざまな場所に生活していることに気づき、基本的な観察技能、観察記録のしかたを身につける。	
		1章 植物の特徴と分類	植物に対する興味感心を持ち、いろいろな植物の観察を行い、その観察記録に基づいて、共通点や相違点があり、分類できることを見だし、植物の体の基本的なつくりを理解する。	D (19)
		2章 動物の特徴と分類	動物に対する興味感心を持ち、いろいろな動物の観察を行い、その観察記録に基づいて、共通点や相違点があり、分類できることを見だし、動物の体の基本的なつくりを理解する。	
7 8 9 月	活きている地球	1章 身近な大地	身近な地形などの観察を通して、観察器具の基本的な扱いを身につけ、大地の成り立ちなどを理解する。	
		2章 ゆれる大地	地震計の記録から地震のゆれの特徴を理解するとともに、記録の整理により地震のゆれの伝わり方を見い出すことができる。また、震源・震央の分布をプレートの動きと関連づけて理解する。	
		3章 火をふく大地	さまざまな火山の活動を調べ、それらの活動の様子はマグマの性質が深く関係していることを考察するとともに、マグマからできる火成岩の特徴を、成因と関連づけて理解する。	
		3章 語る大地	地層を構成する岩石や化石を手がかりとして、地層が堆積した時代や当時の環境を推測することを通じて、地層のでき方を理解する。また、プレートや火山活動や地震などと関連を総合的にとらえ、大地の恵みや災害について理解する。	
10 11 12 月	身のまわりの物質	1章 いろいろな物質とその性質	身のまわりの物質の性質をさまざまな方法で調べ、物質には密度や加熱したときの变化など固有の性質と共通の性質があることを見いだすとともに、実験器具の操作、記録のしかたなどの技能を身につける。	
		2章 いろいろな気体とその性質	気体を発生させてその性質を調べる実験を行い、気体の種類による特性をみいだすとともに、気体を発生させる方法や捕集法などの技能を身につける。	
		3章 水溶液の性質	物質が水に溶ける様子の観察を行い、水溶液の中では溶質が均一に分散していることを見い出す。また、水溶液から溶質を取り出す実験を行い、その結果を溶解度と関連づけて理解する。	
		4章 物質のすがたとその変化	物質の状態変化についての観察、実験を行い、状態変化によって物質の体積は変化するが質量は変化しないことを見い出す。また、物質の状態が変化するときの温度の測定を行い、物質は融点や沸点を境に状態が変化することや沸点の違いによって物質の分離ができることを見い出すことができる。	
1 2 3 月	光・音・力による現象	1章 光による現象	光の反射や屈折の実験を行い、光が水やガラスなどの物質の境界面で反射、屈折するときの規則性を見い出す。また、凸レンズのはたらきについての実験を行い、物体の位置と像の位置および像の大きさの関係を見い出すことができる。	
		2章 音による現象	音についての実験を行い、音はものが振動することによって生じ、音の大きさや高さは発音体の振動のしかたに関係すること、および音は波として空気中をおよそ340m/sの速さで伝わることを見い出すことができる。	
		3章 力による現象	物体に力をはたらかせる実験を行い、物体に力がはたらくとその物体が変形したり、動き始めたり、運動の様子が変わったりすることを見い出すとともに、力は大きさと向きによって表されることを理解する。圧力についての実験を行い、圧力は力の大きさと面積に関係があることを見い出すとともに、結果を重さと関連づけてとらえることができる。2力がつり合う条件を調べ、2力のつり合いを理解する。	

第1学年 音楽科

1 目標

- (1)曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付ける。
- (2)音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができる。
- (3)主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

2 評価について

評価の観点	評価材料
知識・技能	定期試験・実技テスト・授業プリントなど
思考・判断・表現	定期試験・実技テスト・授業プリントなど
主体的に取り組む態度	実技テスト・授業プリント・ノートなど

3 授業について

- (1)授業に必要なものは教科書、器楽教科書、ワーク、リコーダー、ファイル、ノートです。忘れ物をしないようにしましょう。
- (2)歌唱やリコーダーなどの実技を音楽の時間に一生懸命取り組みましょう。
- (3)先生の説明を聞くとときや音楽を視聴するときは集中してよく聴きましょう。
- (4)提出物を期限内に確実に提出しましょう。

4 年間計画

期	月	題 材	学習のねらい	関連する 道徳の項目
前期	4	思いをこめて合唱しよう	●曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした歌唱表現を創意工夫して歌う。	B(8)
	5	曲の構成を感じ取って、表現を工夫しよう	●曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした歌唱表現を創意工夫して歌う。	
		イメージと音楽とのかかわりを感じ取ろう	●音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解するとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠、生活や社会における音楽の意味や役割について自分なりに考え、音楽の良さや美しさを味わって聴く。	
	6	音楽の特徴に注目しながら、情景を思い浮かべよう	●曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。	
	7	曲想を感じ取って、器楽表現を工夫しよう	●曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、それらを生かした器楽表現を創意工夫して演奏する。	
	9	日本の歌のよさや美しさを感じ取って、歌唱表現を工夫しよう	●曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした歌唱表現を創意工夫して歌う。	D(20)
後期	10	曲想やパートの役割を感じ取って、歌唱表現を工夫しよう	●曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした歌唱表現を創意工夫して歌う。	
	11	日本に古くから伝わる合奏に親しみ、その魅力を味わおう	●曲想と音楽の構造との関わり、音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解するとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠、生活や社会における音楽の意味や役割について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。	C(17)
	12			
	1	曲想と音楽の構造との関わりを理解して、その魅力を味わおう	●曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。	
	2	箏曲の特徴を感じ取って、その魅力を味わおう	●音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解するとともに、生活や社会における音楽の意味や役割について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。 ●楽器の音色や響きと奏法との関わりについて理解するとともに、それらを生かした器楽表現を創意工夫して演奏する。 ●音のつながり方の特徴について理解するとともに、それらを生かした創作表現を創意工夫して音楽をつくる。	
	3	曲の構成や曲想の変化を生かして、歌唱表現を工夫しよう	●曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした歌唱表現を創意工夫して歌う。	

第1学年 美術科

1 目標

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫して表すことができるようにする。
- (2) 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさの調和、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。
- (3) 楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。

2 評価について

評価の観点	評価材料
知識・技能	制作過程、作品、授業プリント、定期試験など
思考・判断・表現	制作過程、作品、授業プリント、定期試験など
主体的に学習に取り組む態度	制作過程、作品、授業プリント、定期試験など

3 授業について

- (1) 忘れ物に気をつけましょう。他クラスの人のは借りないようにし、忘れ物をしたら先生に伝えましょう。
- (2) 授業開始時に「めあて」を、終了時に「振り返り」を振り返りシートに記入しましょう。
- (3) 授業中(特に制作時)は集中し、会話を控えましょう。仲間の制作を邪魔してはいけません。
- (4) 制作計画に従って授業の中で作品制作できるようにしましょう。授業内に完成できなかったものは宿題になります。

4 年間計画

月	分野	題材	学習のねらい	関連する 道徳の項目
4	導入	オリエンテーション	美術科のねらいや授業のルールを理解させ、共有する。	A(2)
4 5	絵画・鑑賞	見つめ、感じ取り、描く	①造形的な特徴をもとに、色や形の全体的なイメージをとらえ意図に応じて鉛筆の扱いを工夫して表現することができる。 ②自分の手を見つめ感じ取った特徴をもとに全体と部分の関係などをとらえ構成を工夫するとともに、友達の作品の造形的なよさを感じ取りながら見方を広げることができる。 ③表現および鑑賞の活動を通して、美術の活動の基礎となる鉛筆デッサンのよさを味わおうとする態度を養う。	
5 6 7	デザイン・鑑賞	文字で楽しく伝える 色や光の特徴を知ろう	①文字の造形要素が持つ効果を理解し、制作の順序を考え、見通しを持って表現することができる。 ②わかりやすさと美しさの調和を考え構想を練って、作品を制作するとともにデザインされた文字の意図や工夫を考え見方・感じ方を広げることができる。 ③文字にこめられた表現の意図や工夫を感じ、絵文字の学習に望む態度を培う。	
8	デザイン	夏休みの課題 レポートの制作	教科書に掲載されている作品を1つ選び、作品や作者について調べ、レポートにまとめる。	
9 10 11 12	工芸・鑑賞	風神雷神-受け継がれる 日本の美-	①形や色、材料、光などが感情にもたらす効果が屏風の表現様式をもとに全体のイメージや作風をとらえ、表現および鑑賞活動ができる。 ②風神雷神をテーマとした造形的なよさを感じ取り、屏風の表現形式をいかした構想を練ることができる。 ③屏風ならではの表現形式のよさを感じ、作品の構想や見方を広げることができる。	C(17)
12 1	デザイン・工芸	生活を彩る文様	①文様と模様の効果を理解し、用具の生かし方などを工夫し連続する、文様で模様を表すことができる。 ②自分のイニシャルから主題を生み出し、見方を広げることができる。 ③文様にこめられた願いや生活とのかかわりなどを考え、楽しく学習活動に取り組むことができる。	C(16)
1 2 3	彫刻・鑑賞	自然の形や色を見つめ て	①自分の手の色や形や質感を、感覚を通して捉え材料の特徴を生かして表現したり味わったりすることができる。 ②自分の手の特徴を粘土や絵の具で意図に応じて表すことができる。 ③楽しく自分の手の形や色を表現する活動に取り組むことができる。	D(20)

第1学年 技術・家庭科（技術分野）

1 目標

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係わる技術を身につけ、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。
- (2) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

2 評価について

評価の観点	評価材料
知識・技能	定期試験、授業観察、実習
思力・判断・表現等	定期試験、授業観察、実習、レポート
主体的に学習に取り組む態度	定期試験、授業観察、実習、学習ノート、レポート

3 授業について

- 「情報に関する技術」ではコンピュータ(ipadやパソコンなど)を利用し学習します。
- 「生物育成」については、複数の作物から1つを選択、栽培し、育成条件や環境を学習します。
- 技術の学習は、毎時間授業目標が示されますから、説明をよく聞き、目標に到達できるように真剣に取り組みましょう。
- 準備物は教科書、学習ノート、ファイルの3点です。ファイルはレポート作品や学習プリント類も保存し、卒業まで使用します。大切に扱い、忘れ物のないようにしましょう。
- 課題、宿題はきちんとやりましょう。学習ノートは積極的にまとめていきましょう。

4 年間計画

月	単元	主な学習内容	学習のねらい	関連する道徳の関連項目
4	ガイダンス	①技術の役割 ②技術の見方・考え方 ③技術と生活・産業 ④技術とエネルギー・環境 ⑤受け継がれ発展する技術	○3年間の学習内容を知る。	
5	情報とコンピュータ	○身近な情報について ○コンピュータの役割 ○ソフトウェアのはたらき	○生活の中でどのような情報手段が使われているかを知る。 ○コンピュータを構成する各装置の働きを知る。 ○ハードウェアとソフトウェアについて調べ、その役割を知る。 ○文書作成におけるいろいろな機能を利用することができる。 ○作成した文書が保存できる。 ○基本ソフトウェアと応用ソフトウェアの働き、違いを知る。 ○いろいろな応用ソフトウェアの用途を知る。	
6	生物育成	○さまざまな生物育成の技術	○作物の栽培技術について知る。 ○動物の飼育技術について知る。 ○水産生物の繁殖技術について知る。 ○森林の育成技術について知る。	D(20)
7～10		○生物育成の技術による問題解決	○問題発見と課題を設定する。 ○計画・育成 ○評価し改善について考える。	
9	情報の表現と伝達 情報セキュリティと情報モラル	○情報モラルについて	○情報モラルについて考え、ネットワークの利用が正しくできる。	
10～1	双方向性のあるコンテンツによる問題解決 計画・制御による問題解決	○双方向性のあるコンテンツについて ○双方向性のあるコンテンツについて	○問題発見と課題を設定する。 ○設計・制作 ○評価し改善について考える。	A(4)
2	情報化社会	○情報化社会について	○これからの情報の技術について考える。	
3	評価	○学習の振り返り	○これまでの学習を振り返り、情報化社会に参画する姿勢を養う。	

第1学年 技術・家庭科（家庭分野）

1 目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活に工夫し創造する資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけるようにする。
- (2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し考察したことを倫理的に表現するなどこれからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
- (3) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協力し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

2 評価について

評価の観点	評価の方法
知識・技能	実習観察・プリント・ノート・試験
思考・判断・表現	作品・プリント・ノート・試験
主体的に学習に取り組む態度	作品・プリント・振り返りカード

3 授業について

- (1) 持参物では、教科書、学習ノート、ファイルの3点で、3年間使用します。大切に使いましょう。
- (2) 実習では、針やはさみなど危険なものを扱います。集中して作業しましょう。

4 年間計画

月	題材	小題材	学習のねらい	関連する 道徳の項目
4	ガイダンス	技術・家庭科の授業について	・技術家庭科の授業について注意事項などを学ぶ。	C- (12)
	1 自分の成長と 家族・家庭生活	(1) 今の自分とこれまで	・自分の成長と家族や家庭生活・地域の人々との関わりについて考える。	C- (14) C- (16)
5	2 住生活	(1) 住まいの働きとこちよさ	・家庭の生活と住空間の生活が分かり、住居の基本的な機能を知る。	A- (2)
6		(2) 安全な住まいで安全な暮らし	・家族の安全を考えた住空間の整え方を工夫することができる。	
7	3 衣生活	(1) 布を用いた製作	・布を用いた小物の制作を用いて生活を豊かにする小物づくりの基礎を学習する。	C- (17)
9		(2) 目的に応じた衣服の選択	・衣服と社会生活との関わり、目的に応じた着用や個性を生かす着用、衣服の選択を工夫することができる。	
10		(3) 日常着の活用	・衣服の計画的な活用を考え、適切な選択について考えることができる。	
11		(4) 日常着の手入れ	・材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方を考えることができる。	
12				
1	4 食生活	(1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴	・生活の中で食事が果たす役割について知る。	
2		(2) 中学生に必要な栄養を満たす食事	・中学生の時期の栄養の特徴が分かり、健康によい食習慣について知る。	
3				

第1学年 保健体育科（男子）

1 目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する。

2 評価について

評価の観点	評価材料
知識・技能	定期試験・各実技テストなど
思考・判断・表現	定期試験・各競技取り組み・授業プリント・ノートなど
主体的に学習に取り組む態度	各競技取り組み・授業プリント・ノート・小テストなど

3 授業について

- ・体育の授業で必要な物は、体操服とハーフパンツです（体育館では体育館シューズも必要）。遅れずに授業場所に替えて集合しましょう。
- ・見学をする場合は、保護者の方に所定の届けを記入してもらいましょう。原則、体操服に着替えて見学します。
- ・新しい種目を学ぶときは、実技の本を利用して、競技用語やルールを予習しましょう。
- ・保健の授業で必要な物は、保健の教科書・学習ノート・ファイルです。忘れ物をしないようにしましょう。

4 年間計画

<体育分野>

月	単元	小単元・項目	学習のねらい	関連する道徳の項目
4	体づくり運動	体ほぐしの運動 体の動きを高める運動	体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の意義と行い方、体の動きを高める方法などを理解し、目的に適した運動を身に付け、組み合わせることができる。	Λ(3)
5	体育理論	運動やスポーツの多様性	運動やスポーツが多様であることについて理解する。	
6	球 技	バレーボール	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができる。	C(11)
7	水 泳	クロール 背泳ぎ 平泳ぎ	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、泳法を身に付ける。	
9	器械運動	マット運動	技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、技をよりよく行うことができる。	
10	陸上競技	短距離走 リレー 長距離走	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、陸上競技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な動きや効率のよい動きを身に付ける。	
11	球 技	バスケットボール	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができる。	C(11)
12	球 技	サッカー		
1	ダンス	フォークダンス	感じを込めて踊ったりみんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい、ダンスの特性や由来、表現の仕方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、イメージを捉えた表現や踊りを通じた交流をすることができる。	
2				
3				

<保健分野>

月	単元	学習のねらい	関連する道徳の項目
4～3	調和のとれた生活 心身の発達と心の健康	健康な生活と疾病の予防について理解を深める。 心身の機能の発達と心の健康について理解を深めるとともに、ストレスへの対処をすることができる。	Λ(2) D(19)

第1学年 保健体育科（女子）

1 目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する。

2 評価について

評価の観点	評価材料
知識・技能	定期試験・各実技テストなど
思考・判断・表現	定期試験・各競技取り組み・授業プリント・ノートなど
主体的に学習に取り組む態度	各競技取り組み・授業プリント・ノート・小テストなど

3 授業について

- ・体育の授業に必要な物は、体操服とハーフパンツです（体育館では体育館シューズも必要）。遅れずに授業場所に着替えて集合しましょう。
- ・見学をする場合は、保護者の方に所定の届けを記入してもらいましょう。原則、体操服に着替えて見学します。
- ・新しい種目を学ぶときは、実技の本を利用して、競技用語やルールを予習しましょう。
- ・保健の授業に必要な物は、保健の教科書・学習ノート・ファイルです。忘れ物をしないようにしましょう。

4 年間計画

<体育分野>

月	単元	小単元・項目	学習のねらい	関連する 道徳の項目
4	体づくり運動	体ほぐしの運動 体の動きを高める運動	体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の意義と 行い方、体の動きを高める方法などを理解し、目的に適した運 動を身に付け、組み合わせることができる。	A(3)
5	体育理論	運動やスポーツの多様性	運動やスポーツが多様であることについて理解する。	
6	器械運動	マット運動	技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立 ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力など を理解するとともに、技をよりよく行うことができる。	
7	水泳	クロール 背泳ぎ 平泳ぎ	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、水泳の特性や成り 立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力な どを理解するとともに、泳法を身に付ける。	
9	陸上競技	短距離走 リレー	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、陸上競技の特性や 成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体 力などを理解するとともに、基本的な動きや効率のよい動きを 身に付ける。	
10	球技	バレーボール	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、 技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを 理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲ ームを展開することができる。	C(11)
11	球技	バスケットボール	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、 技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを 理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲ ームを展開することができる。	C(11)
12	陸上競技	長距離走	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、陸上競技の特性や成り 立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力な どを理解するとともに、基本的な動きや効率のよい動きを身に 付ける。	
1	ダンス	フォークダンス	感じを込めて踊ったりみんなで踊ったりする楽しさや喜びを 味わい、ダンスの特性や由来、表現の仕方、その運動に関連 して高まる体力などを理解するとともに、イメージを捉えた 表現や踊りを通じた交流をすることができる。	
2				
3				

<保健分野>

月	単元	学習のねらい	関連する 道徳の項目
4～3	調和のとれた生活 心身の発達と心の健康	健康な生活と疾病の予防について理解を深める。 心身の機能の発達と心の健康について理解を深めるとともに、ストレスへの対処をすることができる。	A(2) D(19)

第1学年 英語科

1 目標

- (1)英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションで活用できる技能を身に付けるようにする。
- (2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりできる力を養う。
- (3)外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

2 評価について

評価の観点	評価材料
知識及び技能	定期試験、単元テスト、パフォーマンステストなど
思考・判断・表現	定期試験、単元テスト、パフォーマンステストなど
主体的に学習に取り組む態度	単元テスト、パフォーマンステスト、単元の振り返りなど

3 授業について

- (1)授業で必要なものは、教科書、ワーク、ファイルです。
- (2)英語の音に慣れるため、先生やデジタル教科書の発音をまねて声に出しましょう。発声を楽しむのが上達のコツです。
- (3)英語を使う活動に積極的に参加し、コミュニケーションの力を上げていきましょう。
- (4)わからないことや疑問に思ったことは、その都度質問をするようにしましょう。
- (5)英語の力を上げるには、毎日の家庭学習が欠かせません。特に、復習にコツコツ取り組むことが大切です。

4 年間計画

月	単元	単元名	学習のねらい	関連する道徳の項目
4	Unit0	Nice to Meet You	クラスメートとあいさつをしたり、好きなものをたずね合ったりすることができる。	
	Unit1	Hello, Everyone!	自分のことを伝えたり、相手のことをたずねたりすることができる。	
5	Unit2	One New Teacher	身近な人やものについて紹介したり、たずねたりすることができる。	
6	Unit3	Our School	知らないものや人についてたずねたり、いつ・どこなのかをたずねたりすることができる。	
7	Unit4	Friends in New Zealand	数や時刻、好きなものについてたずねたり、指示や助言をすることができる。	
	Stage Activity1	"All about Me" Poster	自分の好きなことについて、つながりのある文章を書くことができる。	A-(3)
9	夏休み特集	Our Summer Vacations	夏の思い出を伝え合うことができる。	
	Unit5	My Brothers in Hawaii	自分と相手以外の人やものについてたずねたり伝えたりすることができる。	C-(14)
	Real Life English1	コマーシャル	コマーシャルを聞き、必要な情報を聞き取ることができる。	
10	Unit6	A Rakugo Performer from the U.K.	自分と相手以外の人について話したり、だれのものかをたずねたりすることができる。	C-(17)
	Real Life English2	友達の家で	身近な人に許可を求めたり、依頼したりすることができる。	
	Useful Expressions	飲食店	飲食店で自分の要望を伝えて、料理を注文することができる。	
11	Unit7	An Online Tour of the U.K.	今していることについて説明したり、たずねたりすることができる。	
	Real Life English3	道案内	徒歩での道順をたずねたり、教えたりすることができる。	
	Unit8	Think Globally, Act Locally	したいことや、する必要のあることなどについて説明したり、たずねたりすることができる。	D-(20)
12	Real Life English4	レストラン	レストランなどで、注文をしたり質問に答えたりすることができる。	
	Stage Activity2	My Hero	好きな有名人やあこがれの人についてたずねたり、説明したりすることができる。	
1	Unit9	Winter Vacation	過去の出来事について説明したり、たずねたりすることができる。	
2	Real Life English5	旅先からの便り	旅先からの絵はがきを書くことができる。	
	Unit10	This Year's Memories	過去の状態や気持ち、過去のある時点でしていたことについて説明することができる。	
	Real Life English6	病院にて	症状やこれまでの出来事などを伝えることができる。	
3	Stage Activity3	My Favorite Event This Year	思い出に残った出来事について発表することができる。	
	Let's Read	Gon, the Fox	物語を読み、場面や登場人物の心情の変化を読み取ったり、気持ちをこめて音読したりすることができる。	